

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

○議長 小田 武人君

9 番、辻本議員の一般質問を許します。辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

9 番、辻本です。通告書に従って一般質問させていただきます。お疲れのところと思いますが、もうしばらくのおつき合いを願いたいと思います。

まず、件名 1 でございますが、芦屋の教育にかかわる学校教育の取り組みについて。その中の学力向上策について質問させていただきます。まず要旨 1 でございますが、全国一斉に行われまして全国学力調査の結果と今後の学力向上に向けての取り組みについてでありますけれども、まずは小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に 4 月の 19 日にこの試験が実施されております。その結果が 10 月だったと思いますが、公表されていると思います。芦屋町の小中学校の結果はどうだったのかをお尋ねします。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

まず、結果についてですが、芦屋町の教育の指標で、全国平均を上回る 6 教科を芦屋町は目標値にしております。小学校、中学校それぞれ 4 つの教科区分がございます。

小学校では国語の A 基本、国語の B 活用、そして算数の A 基本、B 活用という形になっております。

中学校も同様で、国語の A、B、数学の A、B となっております。この 8 つの教科区分中、今年度は平成 27 年度と同様、3 つの教科区分が全国平均を上回っております。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

今年の 6 月に芦屋町教育大綱というのが発行されています。これを見ますと、平成 27 年の 4 月に法律が改正されまして、総合教育会議というのが設置されて、町長が教育委員会と十分な意思疎通を図りながら、教育に関する大綱を策定することとしたということが記載されております。この中にですね、学力向上の取り組みというのがありまして、「基礎・基本となる学力を身につけさせ、全国学力・学習状況調査において、全教科で全国平均を上回ることを目標とし、」というのがあります。この大綱を受けて、ことしの何月ですかね、9 月ですか、教育委員会が平成 28 年度の「芦屋の教育」ということで、結構立派な冊子を作成されております。この中身を見てみたらですね、これもの同じように記載をしてありまして、全教科で、先ほどは、大綱

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

ですと全教科となっていますが、この大綱を受けての「芦屋の教育」ではですね、目標は全国平均を上回る教科区分、今ちょっと答弁がありましたけれども、3教科と言われました。平成 27 年度も 3 教科は上回っています。その 3 教科と今年度の成績等であったかというのをもう一度確認します。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

改めて詳細について御報告いたします。

まず、小学校につきましては、4つの教科区分、4つとも全国平均を下回っております。

そして、中学校につきましては、国語の基礎・基本そして数学の基礎が全国平均を上回っております。なお中学校におきましては、数学の活用の正答率が国の平均をわずかに下回っておりますが、県の平均は上回っております。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

今、ちょっと説明ありましたが、相対的にですね、この学力の目標値には達していないという状況のようでございますが、では、その達しない要因分析をされて、今後の対策を進めていかなければならないと私は思いますけれども、どのように進めておられるかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

まず、要因の検証についてですが、各校の調査結果をもとに、学力向上検証委員会を開催し、各小中学校の状況に応じた課題改善取り組みについて検証を行いました。そして、学校ごとに違いはありますが、主な課題改善取り組みとしては、習熟度別指導の徹底、テストや宿題のやり直しによる学力の定着、授業以外の時間、授業前や授業後を利用した短時間のプリント学習、そして家庭学習計画を策定しての家庭学習習慣の定着などがございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

今、学力向上検証委員会を設置して検討しとるという話でございますけれども、今の話の中で

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

ですね、この「芦屋の教育」の中に、「3 小学校の学力格差が大きくなっている。」という記載がしてあります。これですね。これは 27 年度の方できている分だと思いたいますが、去年からわかっているわけですから、じゃあ平成 28 年度は何らかの取り組みがしてあるのかなと思っています。そこで教育長にお尋ねしますが、各学校に対してどのような指導を校長にしてあるか御説明願います。

○議長 小田 武人君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

声が悪くて申しわけございません。今、課長が申したように具体的な手立てはどの学校も同じようなことをやっています。3 小学校、格差が少し出てきたというのは間違いないことだと思います。何よりもやっぱり、いろいろ理由はあるんでしょうけど、学校の先生方が同じベクトルと申しましょか、この方向に向いてみんなで頑張ろうと。そこが一番大事なことでございますから。そういうことを校長にも指示しておりますし、そのほか特別支援学級に該当する子供たちもいるようにございますが、そのような実態は、一人一人の実態をしっかりと調べて、手立てをするような、そういうことを中心にやっております。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

これは大事なことです。毎年、毎年指導していく必要があるかと思えます。今、説明がありました学力向上検証委員会ですか。テストだとか宿題とかプリントとかというような言葉が出ましたけれども、確かにですね、家庭での生活状況というのは、1 回学校から帰ったら勉強を忘れて家でゲームをしたり、テレビを見たりする子が結構多いでしょうし、結構時間も、それに費やしている時間も長いかと思えます。そうするとですね、やはり一定レベルのですね、子供たち全部が全部じゃありませんけれど、一定のレベルの、一般的な標準から低い子供たちにはですね、やはり、本当に宿題をしっかりと出していただくか、家庭で学習する仕組みづくりを推進をしていくことは非常に大事なことはないかなと私は思っていますので、今後、この件につきましては積極的に進められることを予要望しておきます。

次にですね、教育長にまた、これ、お尋ねですが、ことしの 8 月、教職員研修会に参加していただきました。その中で、何月、いつされたかわかりませんが、先生たちに対するアンケート調査をされています。そのアンケート調査の結果を私はもらったんですが、今は手元にはありません。その時見てみまして、覚えていましたのは、やはり先生方は非常に忙しいという声がたくさ

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

んあったような気がします。そこでですね、教育長の最初の説明の中で、先生方の多忙感を軽減するということで見直していきたいとお話しされたと思います。その後、どのような点を見直しをされたのか、お尋ねします。

○議長 小田 武人君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

目の前の具体的な話ではですね、1つはうちがやっていると言いましょか、主催しているというような形で行事がありますが、大きくは3つほどあるんですよ。その中の1つの、二分の一成人式って今までやっていました。これを各学校の二分の一、各学校でやってくださいというふうに、そこはのけました。それが1つですね。

それと、もう1つですね、平成25、26、27年の3年間にわたりまして、県の重点施策という形で、活用する力を定めるという研究指定を受けておりました。これが、26年の中間報告があつて、27年に最終報告をやりましたが、その間に先生方には、何度か公開授業させましたので、指導案つくったりというようなことであつただろうと。そこはなくなりましたので、まあそのあたりは、具体的にはそこら辺がなくなりました。そのほかはですね、うちがやっているのでは、例えば、合唱祭だとか、それからフォーラム、明日ありますフォーラムと。

合唱祭につきましては、従来どおりやっております。これは、やっぱりこの町の大きな特色でございますから。そして、フォーラムにつきましても、ことしと去年だけは子供たちがかかわるシビックプライドという形の中でやってきましたが、そのほかはほとんど先生方がかかわっておりませんので、直接、教育委員会が主催するような物では、さっき申しました2つだろうと思っております。

各学校忙しいというのはですね、先生方によって同じことをやっても忙しいと感じる人と、充実感を感じる。全く個人差がございます。今回、そのアンケートの中でですね、4点満点のアンケートなんです、4、3、2、1と。そう思う、そうでもない、こうなつたときにですね、大体2.7から8くらいの数値が出ているんです。2.5が真ん中です。ですから、忙しいと感じている人と感じていない人、充実感があると、そちらのほうが数としては多いわけですよ。個人個人見ますと、お忙しいと言う方はありましょ。何が一番かというとなつぱり、中学校のほうは部活動が一番、やつぱり大きなウエートを占めているようにあります。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9番 辻本 一夫君

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

今、教育長の答弁でなるほどなと思って聞きいていました。二分の一成人式も結構あちこちでやっていますよね。よく新聞とかその辺で見えています。実態は、今話がありましたように県の重点事業といいますか、指定校といいますかね、やっていけば、確かにそれは学校の科目の重点でしょうから、それに時間を取られるというのは事実だと思っています。それはもう授業ですから、あっても構いません。まあ一つ言えば、心配といいますかね、ちょっと気になることが。芦屋町では、ずっと、「さわやかプロジェクト」ということでうたって、芦屋型小中連携一貫教育と言うんですかね、を推進していること。これについても非常に評価をしております。ただ、やっぱり大事なことは、先生たちがしっかりと授業に向き合えて、生徒と向き合える、そういう時間は非常に大事なことだと思います。

そこでですね、小中学校の、今、先ほど言われました二分の一成人式とか、フォーラムとかいろいろ言われましたけども、そういった合同授業は今わかりました。そのほか不登校への対応、部活動もありますが、こういったことを含めて、要するに授業と授業以外のことに、その先生たちがどのくらいの時間かかわっているのか、把握してあるのかなと思います。ちょっとお尋ねします。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

では、大きな 2 点、部活動と不登校対策について申し上げます。なお、今から申し上げる時間につきましては、複数の先生が年間を通じて 1 年間かかわっておりますので、年間のおおよその延べ時間数と御理解ください。まず部活動についてですが、昨年度は約 1 万 2, 0 0 0 時間、延べでございます。

続きまして、不登校対策ですが、約 1, 1 0 0 時間。どちらも延べでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

部活動は学校の正規の授業と言え、そうかもしれませんが。それはそれで結構ですが。私がかよっと感じとるのは、やはり別の分野でもかかわっている分野がありますので、不登校児童・生徒に対して関心が高いと思っております。ではですね、今、スクールカウンセラーとか相談員さんといいますが、設置をされていると思いますが、実際はその方たちは不登校生徒の家庭に向向いたりしているんですか。

○議長 小田 武人君

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

芦屋中学校に不登校対策員を 1 名、そして教育委員会学校教育課に学校相談員 1 名を常駐で配置しております。中学校のみならず、必要があれば、小学校にもケース会議等出て行って、個別の対応を行います上、必要があれば、さらに各家庭にも出向いて行って対応は行っております。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

単純に不登校といいますが、非常に時間がかかる話だと思います。そういった、その 1 つの家庭に行くにも時間がかかるわけですから、ここに先生が行くか行かないかでは大きく変わってくると思います。本来でしたら、スクールカウンセラーというのがそうじゃないかなと思うんですけど、前職が学校教育にかかわった方たちは、非常にそこらあたり詳しいと思いますので、そういう方たちになってあるのかなと思ってはいますが、私が思うのは、先生たちが直接行く時間が多いのか、スクールカウンセラー、相談員が行くのが多いのか。今の話では先生が多くてスクールカウンセラーが少ないということでしょうか。

○議長 小田 武人君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

スクールカウンセラーはですね、臨床心理士という資格を持った方なんです。これを週に 1 回しか派遣されておられません。スクールカウンセラーは小学校も中学校も対応してくれていますので、その相談が入ったり、主に子供の相談、心の相談。中には、たまには親の相談。これがスクールカウンセラーの仕事内容です。もう 1 人、相談員が中学校に 1 人いますが、この方は民間の方を入れてますので、ただ非常に専門性が高い、資格は持ちませんが専門性が高い方を 1 人置いている。この方は、家庭と連絡したり、家庭に行って指導したりしています。もちろん子供の相談も乗っています。先生はどうするのかというと、先生は不登校の場合、不登校気味の子は、朝、門のところにいましたら、車で迎えに行っています。学校に出てこいと言って、連れてくることもあるし、行っても来なかったりあると。そういう対応をしっかりとやっていますので。今はですね、昔は、不登校はもう病気だというような形で登校刺激なくていいよと言っていました。今は登校刺激を盛んにしていますので。とにかく二日連続して休んだら、さっと学校の先生方が家に行って、登校刺激をして出て来いよという話をしています。いろいろ理由を聞きながらですね、やっておりますので、今はスクールカウンセラーそれから相談員、教員と 3 者がうまくタッグといたしましょうか、組んで子供たちの対応に当たっています。

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

私がちょっと聞きたいのはですね、今、3 者で対応しているという話ですけども、その中の中心は先生かなと思います。そうすると、先ほどから言っている先生の役割というのは、生徒としっかり向き合う時間をとるとというのが大事なことでございますので、考え方として、そういった学習に全力を注がれるようにですね、環境をつくってあげるべきだと思っています。そこから考えると、今の体制でいいのか、いや、もしくは教職員を 1 人でも 2 人でもふやしてほしいと思っ
てあるのか、どちらですか。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

まず、一般的な教職員の配置についてですが、福岡県からの配置に加えて、小学 2 年生から 4 年生までは 3 5 人学級に伴う講師の配置や小中一貫の講師、少人数講師の雇用を町費で行っております。当然、教職員が多ければ多いほど、生徒一人一人に対応する人数が少なくなって、より充実した授業を行いやすい環境にはなるとは思いますが、今現在の人数で一般的な授業の対応はできていると考えております。それ以外の部分で、例えば、特別支援学級における、サポートする介助員であったり、先ほど教育長が申しあげました不登校傾向の児童・生徒をフォローする相談員や支援員、スクールカウンセラーなどは、確かに十分な体制とは言えないかもしれませんが、現状に即して、例えば、町雇用の介助員の増を検討したり、福岡県への要望を続けたりして、今まで以上に十分な配置は目指していきたいと考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

端的に言えば、現場でやれんことではないというニュアンスに聞こえました。必要であればですね、先ほどから出ていますけど、芦屋も教育予算をしっかりとってあるわけですから、その中で、考え方をし、やり方を考えれば、そういうことも可能ではないかと考えています。

では次にですね、ちょっと話がぐっと変わりますが、ここ最近ですね、夏休みを目の前にして、ちょうどその時期だったと思いますけども、県内あちこちですね、夏休みの期間短縮を導入しているところがいくつもありました。芦屋町としてはですね、この夏休み期間の短縮について検

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

討されたことがあるかないかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

私もそういう声を聞いております。それは前提がですね、空調が入ったところ、空調施設、クーラーが。この夏にですね、クーラーを入れたところは、どうやらそういう動きをしているようにあります。芦屋町教育委員会を通してその話を、話題が出ました。どこがやっていますよと。じゃあうちはこの話は一切しておりません。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

今、この全国学力調査で、全国で一斉にやっているわけですから、どこもそこに向かっているわけですね、目標は一緒なんです。その中で、今ちょっと話しましたクーラー、エアコンの話が出ましたが、芦屋町はいち早くこの近辺では早くですね、教育環境の整備ということで取り組んで、夏休み中に工事をしていました。来年からは寒かろうが、暑かろうがですね、しっかり勉強できる状況になるんじゃないかと、こう思っております。そこでですね、今、聞いたのは、やっぱり学校で学習する時間が多ければ多いほど、私は、学力は少し伸びてくると、学習意欲が増してくるんじゃないかというふうに思っています。学力向上の一環としてもですね、この夏休みの期間の短縮は、私はぜひ早急に導入すべきと思っています。平成 29 年度からでも導入されることを提案をしておきます。

次に要旨 2、ICT 教育の導入についてお尋ねをします。平成 27 年度に ICT 教育の導入計画が策定されたと思いますけれども、その後の進捗状況はどうなっておりますでしょうか。お尋ねします。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

ICT につきましては、平成 27 年度に芦屋町情報教育導入事業計画を策定いたしました。進捗状況についてですが、平成 28 年度当初予算では、電子黒板やタブレットなどの ICT 教育機器は、まだ予算化されておらず、新規導入もできておりません。

今現在は、情報教育に係る機材の導入に係る補助金等について、国や県の動向に注視している状況です。

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

なお、福岡県が平成 28 年度から平成 30 年度にかけて、電子黒板の導入に係る補助金を交付することが決定しており、平成 29 年度に町内の小中学校 4 校へ、それぞれ 1 台の電子黒板を導入予定です。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

昨今ですね、携帯、スマホ、タブレット、こういったもの、かなり普及してきております。家庭でもそうだと思います。ICT 教育はですね、学校で活用する電子黒板、タブレット等々のですね、教育、それを活用した教育方法であって、児童・生徒の情報力の活用に非常に効果があるということと授業への関心が高まっていくんだということを記載してある書物を読んだことがあります。早い話が、勉強意欲も増して、教育力向上も効果が現れてくるんじゃないかと思います。今の話の中で電子黒板だけは、補助金が確保できたという話でございしますが、全体的なこの ICT 教育はですね、私が聞いたのは 1 億円以上かかると聞いています。それはとても無理でしょうというのは誰が考えてもそうだと思いますが。そうであるならば、各単町で 1 億とは大変なことです。私が申し上げたいのは、提案でございしますが、そうであるならば、郡内共同による導入方法をとって、お互いが相互利用し合う方法、これを考えるのも一つではないかと思いますが、いかがですか。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 新開 晴浩君

今、議員のおっしゃる共同利用というのは、郡内で購入してお互いに融通し合うということでしょうか。それとも福岡県や北九州市教育事務所から貸与を受けて、県の備品を使って 4 町それぞれ ICT 教育をやりなさいということでしょうかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

何か逆質問されましたけど、まあいいでしょう。

二通りあると思います。1 つは確かに教育事務所があるわけですから、そこでどんと購入してもらって、後はみんな使い回すという方法もあるでしょうし、私がちょっと言ったのは、あくまで遠賀郡でお互い話し合いして、どこかが 1 つセット、共同で買うのが可能かどうかはわかりません。共同で購入するのが難かしかったら、単町でどっか導入してそれをお互いが負担し合っ

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

利用するという方法、私はそれを考えております。

○議長 小田 武人君

ちょっと待ってください。先ほどの学校教育課長については、反問権の許可を受けた後にああいう発言をするように。気をつけてください。

○議長 小田 武人君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

失礼いたしました。課長、ちょっと勘違いしたようです。

学校の場合はですね、教育課程は決まっているんですね。ほぼ、どこの学校も同じようなペースで進めております。学習指導要領が決まっていますから、1年間でこっだけやりましょうと。そうすると教育機器を使うのも、どこが使っても、ほぼ同じように使いたいところ、単元が決まっていますから、それはまず物理的に無理だろうと。ですから、やっぱり各学校が持つことで、しかも、いつでもどこでもと言いませんが、いつでもさっと使えるから効果があるんで。うちもですね、平成 21 年でしたか、1台ずつ学校に入れたんです。たった1台で使いにくいんです。動かしたり何たりすることは。この重たいものを。そこで利用率だって低かったんですが。やはり一番望ましいのは、各教室に1台ずつ電子黒板が入ると。そして先生がいつでも使えるというのは、いつでもいいと。しかし、そこはなかなか、それでもかなり経費がかかりますから。とりあえず、今、課長が申しました 29 年度ぜひ入れていただきたいと思っているのは、せめて各段に1階に1台。そうすると横に動かさず。階段を動かすのは非常に難しゅうございます。そういうことで、今、共同で使えというのは、ちょっと無理だと思っています。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

提案したのが、拒否されましたけど。仕組みですから、そういうことになっているんだと思います。ただ、やはりですね、この時代の流れというものがあります。でも、私、言いました芦屋町でも1億円かかるということのは、全国だったらすごい金がかかるわけですから、国の予算がつくかといったらとんでもないと、多分難しいと思います。そうすると、芦屋町は先ほどの質問でもありました中で、やはりボートの収益、ボート事業からの繰入金、これが2億円の教育基金という話がさっきありました。教育と福祉は行政の施策で中心です。その中で必要であるならばですね、導入をしたらいいんじゃないかと思いますが。現在、平成 28 年度でも 27 年度でも結構です。財政課長にお尋ねしますが、教育予算というのは大体年間いくらですか。

○議長 小田 武人君

財政課長。

○財政課長 藤崎 隆好君

27年度決算の数字でございますが、12億9,900万ということで約13億円になっております。ただし、これには給食センターの建設費用等、投資的経費設計費の大型事業が含まれておりますので、経常分としてはもう少し低い数字、10億円前後になろうかと思っております。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9番 辻本 一夫君

結構、13億とは大きいなと思っておりますけど、投資的経費設計費が必要になっておりますので、ソフト部門といいますか、そこらあたりが実際どのくらいかなというような、ちょっとわかりません。いずれにしてもですね、必要最小限といいますか、やるべきことは、いずれしていかないかんとでしようから年次計画、計画的な導入というのは必要かと思っておりますので、そういうものを念頭におきながらですね、やっていただきたいと思っております。

次にですね、学習指導要領というのが改正されて、平成32年度からですね、小学校5、6年生では英語科授業、3、4年生では外国語活動が行われるということになっています。実はですね、10日ほど前になると思っておりますが、筑豊のですね、宮若市、若宮小学校、昔の若宮小学校がですね、テレビに出ていまして。私このようにすぐ撮りましたけど、毎週3回、正規の授業の前15分間、ずっと英語の勉強をしておるのが流れていました。確かに、今、国際化時代ですので、外国人と今から接する機会がたくさんふえてくるということですね。オリンピックのときは4,000万と言っているぐらいですから、こちらのほうにもかなり、そういう体験する人が出てくるでしょうし、成長すればいろいろな状況、中央に出て行く人もたくさんおると思いますが、そういったことを考えていくとすれば、やはり、早い段階から英語、英会話に慣れ、英語を話せる力ですね、をつけさせるべきだと私はこう思います。私ももうちょっと勉強しとけば、今、ここにおらんで済んだかなと思っておりますけども。いずれにしても英語教育導入については、そこまで差し迫っていると思っております。教育委員会として、教育長としてどのように考えておられるかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

議員おっしゃいましたように、文科省は、30年度から、現在小学校5、6年生に英語教育をしよう。今、あっているのは英語活動なんです。外国語活動と言っています。活動ですから、

言語を大事にしましょう。だからコミュニケーション能力をしっかりと育てましょうと、今やっている英語活動でございます。ですから学校に行くと、リスニングとヒアリング、聞いて話す。これだけで楽しい。これの効果は確かに、今、外国人のALTが入っていますから、確かに子供たちの耳はよくなったというふうに、そして子供たちは大変喜んでいます。楽しいと。ここまではいいのでございますけども、これが英語教育になりますと、今の教育ですから、今、中学生がやっているような形が今度降りてくるだろうと。まさしくここで文字が出てまいります。ですから単語覚えたり、しなくちゃならないと、こういうことが出てまいりまして、そこが大きく違ってきます。英語活動と英語教育の違いはそこにあります。

それからもう1つはですね、今、授業時数と申しますと、月曜日から金曜日まで6時間フルタイムとって30コマ、1時間目、2時間目と30あるわけでございますが。今、大体28から29コマもう使ってしまったっています。小学校5、6年生に70時間、今35時間を使っています。年間35時間、小学校の5、6年生は英語活動やっていますが、もう1時間ふやせということなんです。それをどこにとるか。宮若の話でございますけれども、今、文科省は盛んにとれませんという、現場の声、とれませんかと言うけど、今一緒に15分間ずつ帯にとっていったら、1週間に45分になりますかね。そういう形でとれんかとかいう話してございます。それだとか、土曜日授業の中でやったらどうかとかいう話が出ています。さらには、夏休みも短くしたらどうかとか、こういう話も出て回ってるんですが、非常に問題が多いんだと思っています。例えば帯でとる場合ですね、今、各学校は議員が最初におっしゃいましたとおり、学力調査の中で算数と国語がこんなふうに点数が生で出てくるものですから、どこもこのことに一生懸命になっているんです。その15分間の中で。朝、ドリルを、算数を入れたり、国語は漢字を入れたらとか。じゃあそれはどうなるんだと。そこに英語を入れたらどうなるんだと、こういう話で、現場はどこもそう言っています。それが1つあります。

それから、土曜日授業、これはまだ土曜日授業をやっているところとやっていないところがあります。やっていないところ大部分でございます。私のところは小学校10日間やっていますから、これも今の土曜日授業はそういう教育課程の中身、例えば時間割の中の算数と国語をやることじゃなくて、ICTの危ないことだとかですね、情報教育はどうだとかそういう、そして親と一緒に見てくださいというような、そういう教育課程外のことを中に入れているわけですが、そうすると土曜日授業を、土曜日使ったらどうかといってくると、今の学習指導要領なり、文科省がしようとしたことがちょっとずれてくると。学校週5日制がずれてくる、ということが1つ。

そういうもろもろですね、非常に問題が多いんですけど、今回の学習指導要領はまもなく、32年から出て、きちっと実施になって、2020年はオリンピックを契機に英語活動しっかりやろうというふうに文科省は言っていますけども、これ非常に難しいんですが、決まっています

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

から、やらざるを得ません。だから、どこに組み込んで、もう 1 コマふやすということなんで、これから、これを今から学校と相談しながら、それぞれモデルが出てくるんでしょうけど。本当に、実際にできるかどうか。時間的なことはとれるんです。

一番おもしろいのはですね、例えば、帯でとるとしますね。それと、もう 1 つ問題がですね、先生方免許がないんです。英語の免許、持ってありません。免許がないのに、免許外の授業をしていいかという話が 1 つあるんです。今、文科省も一生懸命、早目になんとか認定しようとして努力しているようですが、まだ全然動いていません。免許を持たない人が授業していいかという話が 1 つあります。

それと、もう 1 つは、そういう ALT みたいなのではなくて、地域にいろいろな英語のしゃべれる人がおったら、その人に入って助けてもらったかどうかという。これは全国比べますと、東京都内にはそんながおるかもわかりませんが、大学生が近くにおります、海外転勤していた人がおりますとかありますが、なかなかそれも全国には通用しない話でございます。そういう中でどうやって英語教育をやっていくか。時間だけとるとするのはとれるかもわかりませんが、本当に英語活動、英語教育というのは身につくかどうか。これは非常に大きな問題があるだろうなと思っていますが、今、から研究してですね、そうはいってやらんわけにはいきませんから。やる以上は一生懸命。今、芦屋でも、中学生ですけど、英語検定をしっかりと頑張ろうと、検定の率を高めていこうと思っていますけども、そういうことで一生懸命努力をしたいと思いますが、なかなか課題が多いということだけ、ちょっとお知らせをしておきます。

以上です。

○議長 小田 武人君

辻本議員。

○議員 9 番 辻本 一夫君

確かにですね、1 日の先生の勤務時間とかいうのがあろうかと思えます。この前、若宮小学校を見てましたら、先生が応対していました。インタビューに答えていました。「私が小学校の教師になったのは、英語が嫌いやったからなった。」と言っていました。でも、英語を教えている。今聞いて資格を持ってあったのかなと思っておりますが。いずれにしてもですね、こういった状況が来たわけですから、私が申し上げたいのは、たまたまさっき言いました、一番最初出ました、教育長の話に出ました、いろいろな小中連携一貫教育、これ、結構でございますが、今ですね、こういう時代だからですね、この事業をやっていることの見直し、先ほどちょうど町長言われましたよね、メモっていますが、地方創生に関することを主体にやっていくので、今までやっている事業を見直しをするようにと、先ほどちょっと言われました、伝えとるという言い方をされました。まさにそうだと思います。だから、教育予算、先ほど聞きました。教育予算の中でいろいろ

平成 28 年第 4 回定例会（辻本一夫議員一般質問）

ろなやっぱりスクラップ&ビルドということがありますもんで、これを今、求められているんじゃないかな、とこう思っております。そういったことをすることによって、先生たちの多忙感も軽減を図ることも可能かと思えますし、いろいろな英語教育はALTそれからICT教育、いろいろと課題はいっぱい出てきておりますが、いずれにしてもこの学力調査というのは、これは試験ですからいい時も悪い時もありますよ。それを重々わかっております。でも、要は全体の底上げをするためにどのようにすればいいのかということをもう一度教育委員会で、内部でですね、いろいろな話し合いをされ、事業を見直していくということを期待しておきます。

今後ともですね、終わりになりますが、今後もこの教育大綱で示された目標、これは芦屋の教育にも書いてありますが、この県全体の目標というのは最低レベルだというふうに、私は思っておりますので、これに向かってしっかりとですね、進んでいていただきたいと、このことをお願い申し上げて、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 小田 武人君

以上で、辻本議員の一般質問は終わりました。